

旧中仙町



◆秀よし

『秀よし』の銘柄で有名な鈴木酒造店。元禄2年創業で佐竹藩御用酒に優れるとして「秀でてよし→秀よし」が由来だそうです。



◆ドンパン節

中仙といえば「ドンドンパンパン〜…」で全国的に有名なドンパン節。歴史漂う重厚な酒蔵で、ドンパン踊りを鑑賞しました。

現地見学会終了後に参加者から、「この見学会で秋田にもまだまだ見きれていない、いえ、見なければいけない場所が多々あったのだと再認識した。」「もう一度周りを見渡し、考えてみようと思った。」「農山村が失われていくことは人間生活においてとても悲痛なことを実感した。なんとしても、この大切な農山村を守っていかなければならないと思った。」等の感想がよせられた。

県では、来年度以降も中山間地域理解の啓発・普及につながる取り組みを実施していくこととしている。

(秋田県農林水産部農山村振興課)

平成20年度換地計画作成・農地連坦化促進研修会

9月8日(月)、水土里ネット秋田が主催する「平成20年度換地計画作成・農地連坦化促進研修会」が秋田県社会福祉会館(秋田市)で開催され、県や市町村、土地改良区などの事業関係者約140名が参加した。

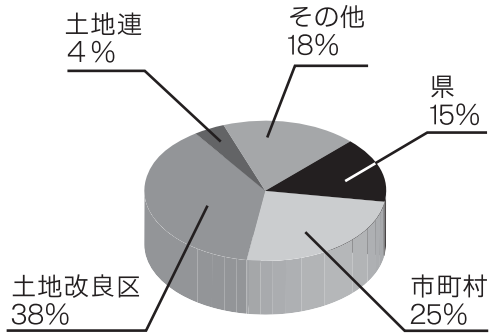
研修会では、県農林水産部や水土里ネット秋田の事業担当職員、秋田県農業公社の戸嶋農業振興部次長などを講師に招き、「経営体育成促進換地等調整事業及び換地計画作成(概要編・実務編)」、「ほ場整備事業をめぐる状況」、「農地の面的集積と保有合理化事業の推進」などに関する講義が行われ、参加者は今後の業務の参考にしようと熱心に講義に聴き入っていた。



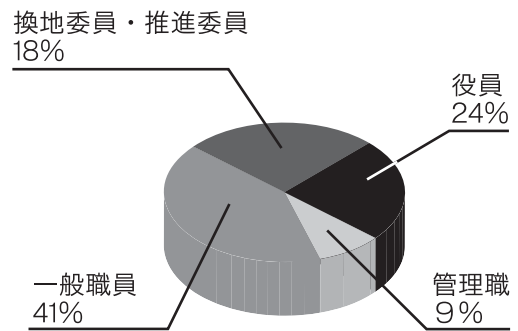
なお、当日参加者に対して行った研修会に関するアンケート調査の主な結果について報告いたします。

換地計画作成・農地連坦化促進研修会アンケート集計表

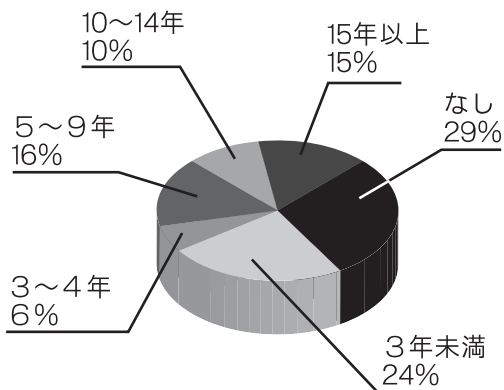
あなたの所属は



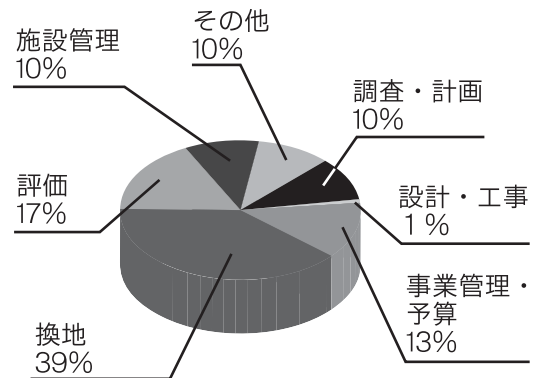
役職



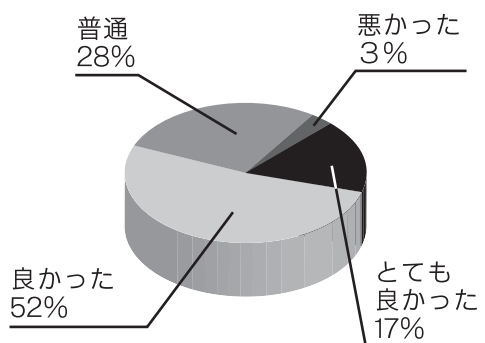
経験年数



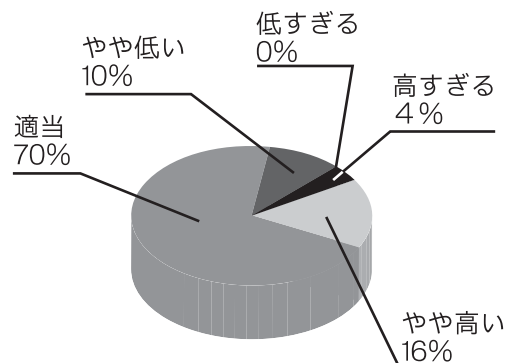
現在携わっている主な業務



研修の感想



研修のレベル



水土里ネット「平鹿平野」農業水利施設研修会 活動報告

—水土里ネット雄物川筋—

国営かんがい排水事業により、改修工事が行われている農業水利施設の現地研修会が、昨年に続き管内の受益者を対象に、平成20年8月1日から8日まで6回にわたり、水土里ネット雄物川筋が主催、東北農政局平鹿平野農業水利事業所共催、管内10ヶ所の水土里ネット、水利調整組合、土地改良管理組合などの協力を得て、延べ237人の参加者により開催された。



8月8日開催 横手市増田地区・湯沢市岩崎地区の参加者



部分改修が予定されている成瀬頭首工

国営平鹿平野農業水利事業は平成13年度着工以来、平成24年度の事業完了に向け着々と工事が行われている。この研修会は現地研修を通して現在の配水形態と事業完了後の水利用計画の違いを認識してもらうとともに、施設の果たす役割・環境に配慮した事業・現在の農業情勢の変化などについて関心を持ってもらうことを目的としている。

研修地として、今年度で全面改修工事を終える皆瀬頭首工、今年度から部分改修が施工される成瀬頭首工、そして主要分木工や公平な水配分に大きな期待が寄せられる併設型水路(上・下流部専用水路)など10ヶ所の施設となっており、各参加者の関係する施設は勿論、用水系統の違う施設についても十分に理解が得られる行程となっている。

地区ごとに関係水土里ネットが集合場所となり出発。最初の研修地は国道342号線沿いに位置する成瀬頭首工です。今年度から部分改修が行われる予定となっており、ゲート類の改修や新たに魚道が施工されるなどの概要説明に、水系の違う参加者からも積極的な質問があった。

その後、全面改修工事も完成間近で、来年4月からの取水開始に向け大詰めを向かえた皆瀬頭首工へと移動。工事用に造られた仮設栈橋からの研修となり、最新の技術を用いた真新しい頭首工と旧頭首工とを見比べながら、事業所担当官からの概要説明を受けた。参加者からは、河川増水時のラバー堰の対応や、自然の状態に近い構造となっている魚道など、新旧頭首工の違いについてたくさんの質問があった。



皆瀬頭首工建設工事用の仮設栈橋で概要説明



今年度に解体が予定されている旧皆瀬頭首工

また、昭和39年に完成して以来44年間の長きにわたり、基幹水利施設として地域農業を支えてきた旧頭首工が今年度を以て解体される。旧頭首工を眺める参加者の姿に、新頭首工への期待とは裏腹に、一つの時代が終わるような寂しさを感じた。

そして参加者が直接関係する各主要分土工では、特に公平な配水を行うため複雑な構造になっている分土工への関心が高く、ゲートの構造や、どの地区にどの位分水するのかなど質問があった。中には県営水路からの分土工や末端の分土工は知っているが、このような国営水路の大規模な分土工を初めて目にするという方も数多く、水田脇の水路へと水が流れて行く経緯についてもこの期に理解して頂いたと思う。

また、下流地域の水不足解消と公平に水を使用するために改修された併設型水路では、実際に上流部専用・下流部専用の水路を見ることにより、上流部が有利とされる意識を変えられたように感じた。



湯沢市岩崎地区へ分水する岩崎分土工
〔皆瀬1号幹線用水路〕



皆瀬川の川底をサイホンにより湯沢市岩崎地区へと
通水するM7サイホン〔皆瀬7号幹線用水路〕



住宅街に位置し、複雑な構造になっている坂下分土工
〔皆瀬1号幹線用水路〕



上流・下流部専用水路〔皆瀬2号幹線用水路〕

国営平鹿平野農業水利事業は平成24年度の事業完了に向け着々と改修が進められ、平成19年度までの工事進捗率が46.6%となっている。

夏の日差しがふりそそぐ中、6日間を振り返り、今回参加して頂いた方々にとって昨今の農業情勢が厳しい中、このような大規模な改修工事が行われていることに驚きを覚えた方もいると思われる。

しかしながら、地域の基幹産業として位置づけられている農業にとって、子々孫々まで受け継がれる大切な施設であり、また、欠かすことのできない大事な事業であることも、この研修会を通し認識して頂いたと思う。



8月5日に開催された、横手・大雄地区の研修会に横手市立十文字中学校2年生5名が職場体験に訪れ、各施設を大人たちと一緒に研修を行った。